

大阪総合デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

(令和元年度)

実施日＝令和元年9月18日

学校法人上田学園

大阪総合デザイン専門学校

学校法人上田学園 大阪総合デザイン専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年6月から毎年6月に本学園のホームページ上に公表いたしました。

また、平成25年度より、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施いたしております。学校関係者評価委員会では、第三者の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年9月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
大阪総合デザイン専門学校 校長 丸岡宏次

1. 「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「平成30年度学校自己評価報告書」に基づき、本校と関係の深い4名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には、事前に「平成30年度学校自己評価報告書」等の学校評価に関連する資料を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見を頂戴しました。

評価委員からのご意見は、校長が承り、その内容等について要約の上、報告書として取り纏めました。

平成30年度学校自己評価報告書と併せてご覧いただければと存じます。

2. 学校関係者評価委員一覧表

| 評価委員 | 当校との関係属性等 | 備考 |
|-------|---|-----|
| 井村 良裕 | 同窓会名誉会長・評議員 卒業生の代表として参画 毎年、卒業制作の中から同窓会会長賞を選出頂いている。 | 委員長 |
| 鵜飼 隆 | (有)タイトルアート 代表取締役 卒業生を継続的に多数ご採用頂いている企業の代表として参画。 | |
| 廣瀬 勇一 | 株式会社ロイスエンタテインメント 代表取締役 卒業生・留学生を採用頂いている企業の代表として参画 | |
| 飯田 俊子 | 元(公財)大阪観光局 常務理事 地域振興における有識者として参画 | |

3. 学校関係者評価委員会 次第（令和元年9月18日開催）

1. 校長挨拶
2. 新任委員のご紹介
3. 自己評価報告書の概要説明
4. 重点目標、事業計画、今後の取組み方針等の説明
5. 学科再編成について
6. 今後の方向性に対する助言

その内容等について、学校評価ガイドラインの大項目に沿って、要約の上、以下の通り報告いたします。

大項目別 学校関係者評価結果 意見・助言

| No. | 大項目 | 評価項目 | 適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切 2 不適切:1 | 意見・助言 |
|-----|-------------------------------|---|------------------------------------|---|
| 1 | 教育理念 ・ 目的 ・ 人材育成像 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・「技術」「感性」「知性」「時代性」という教育理念が明確であり、これに沿った施策が実行されている。 ・50年以上の歴史の中で学校の理念・目的人材育成像はしっかりと形成されており、教職員にも浸透していると思う。 |

| | | | | |
|---|------------|---|-----|--|
| 2 | 学 校 運 営 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的→制度→計画→運営、というサイクルがしっかりとできている。 ・情報公開については、Web上での公開が社会的にも求められてきており、適切で分かり易い情報提供が必要だと思う。 ・社会的にコンプライアンスが問題になっており、問題が起こる以前に、教職員個々人の意識改革や体制の整備が不可欠である。 |
| 3 | 教 育 活 動 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズ把握のためにアンケートを実施しているのは、ぜひ続けてほしい。教員のみならず、学生へのフィードバックについても検討してほしい。 ・現代においては、学科が対応する業界自体が常時急速に変化するため、業界のニーズも流動的なので、柔軟なカリキュラム変更・修正が必要だと思う。 ・本校の専門教育分野は、資格制度に馴染みにくいものが多いが、資格取得に向け、学校での団体受験の実施や、学外コンペへの参加により、対外的評価を得る機会を取り入れている。 ・職業実践専門課程においては、企業と連携した作品・商品作りに取り組み、着実に実績を積み上げている。 |
| 4 | 学 修 成 果 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・国の指標として就職率を第一に挙げられるが、それに馴染みにくい学科もあり、本校として卒業後のキャリア形成をどう作るかが課題である。 ・卒業生は母校に愛着を持っている者も多く、卒業後も専門分野で切磋琢磨している。そこと在校生を有益に連動できれば成果に繋がると思う。 ・留学生の就職も課題だと思う。 |

| | | | | |
|----|-------------------|---|-----|---|
| 5 | 学生支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生に寄り添うようなしっかりとした体制がある。 ・教員がラインやフェイスブックを用いて、学生の相談にも応じており、丁寧に支援していると思う。 ・学生も多様化しており、教員の学生への接し方にもテコ入れが必要かもしれない。 ・留学生増加に伴い、困難な課題もあると思うが、要望の聴取と対応が信頼につながると思う。 |
| 6 | 教育環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種 IT 機器等、しっかり整備されている。 ・インターネットを用いた授業支援体制の整備にも努めている。 ・防災に関しては、留学生に対して、適切に情報が届くように体制を整備してほしい。 |
| 7 | 学生の受け入れ募集 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・正直すぎるほど学科の教育内容を正確に伝達している。 ・IT 化に伴い、入学申請も WEB 申請が増えてきており、入学希望者、保護者等への情報公開にも的確に答えられるようにしてほしい。 |
| 8 | 財務 | <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計検査が適正に行なわれているか ・財務情報公開の体制整備はできているか | 3.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・財務情報は、適切に Web 上に公開されている。 ・当期は赤字だが、その後の収支均衡計画が評価できる。 ・財務基盤はしっかりしており、早期の収支均衡を達成してほしい。 |
| 9 | 法令等の遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか ・自己評価結果を公開しているか | 3.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした制度、規則、運営ができています。 ・問題なく運営されていると思う。 |
| 10 | 社会貢献 ・ 地域貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域連携を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション専攻があるので、京都アニメーションに対してのメッセージの発信や、災害が多発しているのを、被災地出身の学生の保護者に向けて、メッセージを送るなどの働きかけが出来るのではないかと思います。 |

| | | | | |
|---------|------|--|---|--|
| 11 | 国際交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに重要となってくるところで、他校との差別化をするために、一歩進んだ対策を検討していく必要がある。 ・留学生の入学、卒業後の就職が順調であり、成果が出ている。 ・アジア系の学生は、日本語を覚えて、日本での就職を考えている学生も多い。 |
| 総括的なご意見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・時代性に合致するよう学科編成を改変しており、学生自身が主体性を持って選択し、学科の垣根を越えて、引き出しを増やせるカリキュラム構成をめざしている。 ・目標を持って入ってくる学生に1年次からキャリア意識を持たせ、就職のみならず、作家等の活動で社会人デビューを果たせるような指導法を構築しようとしている。 ・少子化という市場環境が厳しい中、できるかぎり様々な手段をとっていると思う。 ・留学生の増加は、現状として避けられないことだと思うので、目標を持って留学してくる学生たちが、挫折することなく、専門性を身につけて母国に帰国する、或いは日本で就職するといったことができるように、どう指導していくのか、体制の整備が急務である。 ・生活面においても留学生は、災害時などの情報が入らず、孤立することが多いので、フォローできる仕組み作りが必要であり、適切に情報が得られた場合などは、SNSで広く経験を発信してくれるので、有益である。 ・多くの資産を有しており、財務基盤は強固かと思われるが、早期の収支均衡を達成してもらえればと思う。 ・国の高等教育支援制度が導入されることに伴い、速やかに支援制度対象機関に該当するよう努められたい。その際、安易な定員削減は避けるべきである。 | | |

* 各委員に項目ごとに4段階評価を受け、総合評価として平均値を記載。

6. 終わりに

校長から各委員に貴重なご意見を頂戴したことに対して謝辞を述べ、今回提示された学校、学園運営の課題等は、所轄部所にて改善策を検討することとし、閉会となった。

以上